

# Launchers

ランチャーズ会報2004年1/6号

● 2月の記録会は2月15日(日)大宮田んぼ(9:00~12:00)

3月の記録会は3月21日(日)大宮田んぼ(9:00~12:00)です!

21世紀になって早4年が経ちます。最近では日本の高齢化も現実化して、その影響がFF界にも如実になってきました。それもあってFFのメンバーもジワリジワリ変化していると感じます。

HLGのみならず、ゴム動力機のメンバーも新顔が増えてきました。今年はその辺の変化がどう現れるのか楽しみにしています。

話題変わって、今年こそはUHLGの年になりそうです。野球投げHLGとどこまで張り合っ  
て勝てるのでしょうか、そこが楽しみです。もし、UHLGの安定性が本物であれば、HLGの  
競技年齢は70才を超して80才になるかも知れません。そうすると、ほとんど人間の寿命同じ  
になるので、

死ぬ前日までHLGを飛ばしす事も夢ではありません。やがては、60歳以上のみの記録会とか、  
70歳以上の会とかを夢見て、今年も頑張ります。

①会長挨拶

②会計報告とお願い

記録報告

③2003年12月記録会/CLG

④2003年12月記録会/HLG、

⑤2003年12月飛びっ子

⑥2004年1月記録会/HLG

⑦2004年1月記録会/CLG

⑧湘南大会報告

⑨寒中杯報告

お知らせ

⑩板倉大会案内

FFサロン

⑪先尾翼機

⑫UHLG考

⑬新HLG紹介

⑭特別寄稿・仁木さんのライトプレーン100号に寄せて・石井英夫

● 年頭の会長挨拶

①.....相沢

2004年、明けましておめでとうございます。真冬のイベント「寒中杯」を主催する代々木ス  
カイフレンズは今年結成30周年になるそうです。ランチャーズは1980年にT-HLG(東  
京ハンドランチクラブ)とC-HLG(千葉ハンドランチクラブ)が合併して発足したので、今  
年末で結成25周年ということになります。

世の中の移り変わりは30周年説というのがあるとか。例えばその時代のトップ10の企業は3  
0年で総入れ替えになると言います。世の中、良しにつけ悪しにつけ変化していきます。それは  
私たち自身が変化を(新しいものを)求めて止まないからでしょう。新鮮さを失ったものは葬り  
去られます。HLGが今日なお存続するということは、飛ばす人に新鮮な感動を与え続けてくれる  
からでしょう。投げるという動作だけで感動を与えてくれるHLG、そこに底?知れぬ魅力が  
あります。今年もランチャーズ記録会で沢山の感動に出会えると信じています。来年は25周年  
を記念して何かイベント企画をしましょう。

● ランチャーズ03年度会計報告とお願い

②.....平尾

昨年は皆様のご協力により、かろうじて黒字になりました。Tシャツ代金が足を引っ張ってい  
ますが多少繰越金が出ました。今年Tシャツがない年なので安定した運営が出来そうです。

購読会員も増えて会員も増加傾向です。これまでは発送の手間を省く関係から勝手に64名を上限にして切っていましたが、今年からは少し増員する方向とします。

KFCの会報が廃止されてから、FFの情報誌は4紙（実状は3.5紙か）のみです。共倒れにならないように頑張りましょう。今年の会費もよろしくお願いします。

**収入**（単位円）

会費	45名×2,000円=90,000
前年度繰越し	5,009
計	95,009

**支出**

封筒・ラベル	3,633
オニックスカップ（51個）	5,220
送料（6回分）	34,050
Tシャツ購入費（売残り分）	43,530
計	86,433

**残金**

8,576円

**◆2003年12月記録会の結果（HLG/CLG）**

**★12月PLG記録会報告**

佐藤・・・③

富士山がきれいに見える快晴でしたが、残念ながら強風のため最悪のコンディションでした。優勝はトレーナーをコンスタントに飛ばした河田さん、上昇も素晴らしくグライドも大変良い機体で唯一記録が安定していました。2位は久し振りに参加した長老の内山さん。3位はファイトマンの戸谷さん。4位は最近不調の鈴木さん、常勝・石井さんは強風のため回収困難で2回でリタイヤでした。省略。

追記：PLGは、この日の風では飛ばす事は出来ても機体が小さいので落下地点の確認が出来ず回収が困難でした。その為か、今回の成績は200秒以上は1人のみと、異常事態。

多少の風の中でも飛ぶPLGを作るのは難しいのでしょうか・・・。その点HLGは風があってもガンガン飛ばせるのが強みでしょう。

12月PLG記録 大宮田んぼ、晴天12℃ 北風4～6m/s 10投中5投の合計 60秒MAX

NO	氏名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	合計	F1	F2	合計
1	河田	43	44	46	45	60	44	37	37	60	35	255			255
2	内山	40	26	10	36	07	13	30	48	-	-	180			180
3	戸谷	60	33	15	19	11	21	27	08	24	-	153			153
4	鈴木	27	60	24	22	14	09	18	05	06	17	151			151
5	佐藤	18	25	25	24	18	21	10	28	25	22	128			128
6	加藤	18	19	18	23	10	18	23	44	-	-	127			127
7	西原	31	20	60	-	-	-	-	-	-	-	111			111
8	石井	27	60	-	-	-	-	-	-	-	-	87			87

**★12月HLG記録会報告**

1. 相沢、2. 平尾・・・④

残念！大八木さんの4連勝はなりませんでした。12月21日（日）は朝から風があり、壊れる機体が続出。カーボンや何やら使っている割には弱いようです。HLGもPLGも飛びっ子も?? 絶対風対策が必要です。だって、他の種目が飛ばせない時でもHLGは飛ばせるというのが魅力のひとつなんですから。ということで今回の上位は風に強い機体と強腕力の持ち主ということになったようです。少し風があると練習出来ない、狭い飛行場事情が機体の強度に現れているように思えます。吉敷さん、春山さんはアンダーハンドスローがきちんと決まっています、完

成の域です。今回の注目は2位の復活したのか相澤、と3位の梅津さんでしょう。

相澤の記録は風の賜物です。梅津さんは記録会に最近参加してこられた方です。4MAX 286秒は立派です。記録がよい時とそうでない時があるので、安定感増して常に上位に顔を出してもらいたいものです。

大八木さんは目の玉を怪我して辛そうでした。しかし、開始早々4連勝を感じさせるMAX、でも風に翻弄されて今一記録が伸びませんでした残念！

今回は今年最後の記録会となりました。今年のトピックスはなんと言ってもアンダーハンドスローHLGが完成の域に達したことではないでしょうか。世界に誇れるレベルに成っていると思いますので、新年はネットを通して情報を発信しようと思っています。（相澤記）

追記：ランチャーズ以外の飛行機屋はチラホラでしたが、元気印のランチャーズは20名を超す参加でした。この日はみんな、やや大人しく風の中を「もくもく」と言った感じで投げっていました。

但し、北風なので田んぼの長手方向に飛び回収はひとまずは安心なものの、やはり一仕事でした。デザマワークをミスると土手を超えて帰ってこない選手もいたりして混戦模様。

UHLGは風の日はやや不利でしたが、元祖2（元祖1は石井満）の吉敷選手はさすがに投げが安定していて、凄い高度を取ってきれいに返るのです。野球投げの選手はショックだったと思います。或る人は「50mは上がっているのでは」といっていましたが、機体が小さいので、少なめに読んでも高度は35mはあったでしょう。見事！しかし、野球投げの良さは上空のピンポイントに投げられることで、UHLGはこの点では一歩及びません。しかし吉敷選手はそれをものともせず優勝しました。2位は復活なった相沢会長、この日の高度は立派で、この分では当分の間優勝戦線に残る見込み。伝統ある飛ばない飛行機（最近は大分飛ぶようになってきた）を使っての復活は立派でした。

UHLGの中には風のせいで脱落した選手も居て、強風の日には野球投げが断然有利、強風時は機体が吹き上げられるのを防ぐ為に、いつもよりやや水平に投げる事。それにより風の速度と投げの初速が加算されてその分機速が増し高度が取れるのです。ご記憶あれ。

12月HLG記録・大宮田んぼ、晴天・12℃ 北風4～6m/s、60秒max 10投中5投の合計

NO	氏名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	合計	F1	F2	合計
1	吉敷	60	59	60	60	60	-	-	-	-	-	299			299
2	相沢	29	60	40	53	60	60	60	49	47	23	293			293
3	梅津	46	31	31	60	39	22	60	31	60	60	286			286
4	春山	44	36	36	42	60	52	60	60	-	-	276			276
5	吉野	30	60	26	24	60	60	60	-	-	-	270			270
6	石山	57	52	39	60	60	27	14	28	32	-	268			268
7	吉田	37	24	60	60	36	57	32	36	02	43	250			250
8	大八木	60	54	32	60	19	21	35	27	30	-	241			241
9	小川	57	60	60	27	36	-	-	-	-	-	240			240
10	宮辺	29	27	54	26	60	22	17	30	39	27	212			212
11	川口	31	60	40	28	37	23	23	36	29	25	204			204
12	斉藤	53	34	39	30	41	29	05	31	22	10	198			198
13	平尾	12	46	26	23	17	05	30	24	19	18	169			196
14	古矢	19	13	23	40	19	25	40	05	05	23	151			151
15	今関	06	17	0	-	-	-	-	-	-	-	23			23

★ 12月飛びっ子記録会報告

佐藤・・・⑤

優勝は本家の吉野さんの97秒、流石です。2位は吉田さんで57秒、3位は戸谷さん。久し

振りの飛びっ子大会でしたが、6名の参加がありました。

無尾翼機の飛びっ子はさすがに、この日の風では不利でした。その中で最長のタイムが28秒は立派なもの。ウェークの前田さんがバルサで飛びっ子を作ったところ「すごく飛ぶ」といってました。バルサの方が重いので高度を取るらしい。この競技には自作も参加できるのでしょうか・・・。

**12月飛びっ子記録 大宮田んぼ、晴天12℃ 北風4~6m/s 5投の合計 60秒MAX**

NO	氏名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	合計	F1	F2	合計
1	吉野	15	24	19	28	11						97			97
2	吉田	14	09	25	03	06						57			57
3	戸谷	16	02	08	11	13						50			50
4	相沢	10	09	13	10	07						49			49
5	佐藤	06	14	12	04	11						47			47
8	斉藤	08	08	07	08	03						34			34

**◆2004年1月記録会の結果（HLG／CLG）**

**★ 1月HLG記録会報告**

相沢・平尾・・・⑥

2004年1月、とうとう？平尾さんがアンダースローHLGでパーフェクト達成！！フライオフに進出、残念ながら3位でしたが「すごい！！」と言わざるを得ない。ご本人いわく、「イヤー、サーマルのおかげ」といつもの平尾さんと違って遠慮気味のコメント。この記録は日頃のアンダースロー機とサーマル読みの研究の賜物でしょう。還暦を過ぎたHLGフライヤーにも優勝のチャンスがあることを証明してくれました。

強かったのはこのところ好調の石山さんでした。3投を残して5MAXを達成、挑戦者を待つと言った感じの堂々たるもの。10分間のフライオフで1回きたサーマルを確実にとらえて90秒MAXは正に王者でした。2位は池田さん、こちらはじっくりとサーマルを狙い5MAXでフライオフに進出。しかし、平尾さんの5MAXにびっくりしたのか決勝戦は不発でした。（相沢）

前の日の予報では雪が残ると言われていましたが、この日は意外な好天に恵まれて、絶好のヒコキ日よりとなりました。しかも結構暖かく昼にはシャツ姿の選手もチラホラ。天候を疑っていた人は来なかったものの参加者18名と好調。HLG投げには風も手頃で好記録の予想あり。

この日の200秒超は15／17人とスバラシイものでした。まだ、円盤投げHLGは少数派で8名でしたが、その雄・春山選手の調子がイマイチで6秒落ちで4位は残念。5位はこの日はHLGに専念し4MAXまで行きながら最後の一投が出なかった川口選手の288秒、6位は久しぶり参加の久保選手、楽しそうに多機種を投げていました。7位は賞品が出ないと今ひとつ気が乗らないのか吉田選手、8位は大型UHLGを投げていたが、調整が決まらず苦戦した今関選手、9位はこのところ昔の高度が出だした相沢会長、この日はタイムにムラがあり255秒、10位は連勝が止まった大八木選手、しかし247秒はまずまずでしょう。11位の光が丘・斉藤選手は、投げが安定しているので、後はサーマル読みだ。12位はオーストラリアキットの大型機（スパン700mm、翼面加重6g）を飛ばす吉野選手、大型機の投げ方が解ればイケル。13位、14位、15位と200秒超の有望新人が続きます。16位は大型新人の戸谷選手、年を感じさせないパワーは大したもの。17位は鍋に気を取られたか斉藤パパ。18位はまだ大丈夫、古矢選手でした。

そろそろ円盤投げが上位をねらえる位置に定着しつつあります。この投げ方だと、大きな機体が相当な高度を取るなので、やらなきゃ損！！残る問題は振り返りの安定性である。これは丹念な調整に尽きる。調整が完了した円盤投げ大型機は投げ速度が20%程度は上がるので、ほぼ1分近く飛ぶので、軽いサーマルに乗せるだけでMAXが捕れるのでパーフェクトは間近にある。ぜひ

お試しあれ。

1月HLG記録 大宮田んぼ、晴天 8℃ 風北東1~4m/s、60秒max

NO	氏名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	計	F1	F2	合計
1	石山	60	60	50	60	30	60	60	-	-	-	300	90		390
2	池田	30	60	46	20	36	60	60	60	13	60	300	46/24		346
3	平尾	38	35	36	33	60	60	27	60	60	60	300	19/28		328
4	春山	45	60	60	60	54	60	46	48	38	47	294			294
5	川口	48	38	31	31	40	60	38	60	60	60	288			288
6	久保	36	57	46	60	52	60	17	15	28	48	277			277
7	吉田	60	46	45	60	39	60	42	38	05	39	271			271
8	今関	19	41	57	60	29	52	34	47	34	18	257			257
9	相沢	35	22	31	17	19	60	30	60	40	60	255			255
10	大八木	48	30	33	32	33	45	60	34	26	60	247			247
11	斉藤光	34	28	38	33	43	48	22	49	19	60	228			228
12	吉野	34	34	28	37	29	24	60	08	60	06	225			225
13	富士塚	36	22	60	21	42	30	30	20	39	34	211			211
14	大島	31	60	45	23	08	12	08	45	27	26	208			208
15	三田	38	30	26	22	24	26	22	31	46	60	205			205
16	戸谷	19	32	15	22	29	23	17	28	60	28	177			177
17	斉藤パ	07	43	36	28	29	30	23	32	27	35	176			176
18	古矢	27	06	17	16	16	29	16	21	57	24	158			158

★ 1月PLG記録会報告

佐藤・・・⑦

快晴に恵まれ比較的コンディションも良いと思われましたが、意外に気流が悪くオールMAXは出ませんでした。この所好調の河田さんが280秒で優勝。2位は1秒差(279秒)のベテランの石井さん。3位はハンドランチと掛持ちでファイトマンの戸谷さん。4位は倉田さんでした。

5位は倉田号でCLGでは初陣の出口さん、回を重ねる都度調整が慣れてきたのか、流石ベテランの味が出ました。以下省略。

1月PLG記録 大宮田んぼ、晴天8℃ 北風1~4m/s 10投中5投の合計 60秒MAX

NO	氏名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	合計	F1	F2	合計
1	河田	54	37	56	16	52	58	46	60	47	50	280			280
2	石井	51	07	43	47	49	54	60	43	54	60	279			279
3	戸谷	13	26	37	60	32	36	53	42	52	30	244			244
4	倉田	06	41	35	24	45	42	17	07	10	55	218			218
5	出口	05	07	09	21	30	37	27	21	60	46	200			200
6	佐藤	16	43	43	37	31	27	45	28	24	25	199			199
7	鈴木	05	22	31	32	18	53	41	24	29	40	197			197

◆ 2004年湘南大会報告 大宮田んぼ、薄曇り、風5~10m 平尾・・・⑧

湘南大会は片岡田んぼ、地元の反対等で開催が出来なくなり、大宮田んぼで開催されるようになって早3年が経ちました。日本の伝統あるFF飛行場がしだいに減ってきて寂しい限りです。

これも時代の趨勢としてあきらめていたのでは、ついには飛ばす所が無くなる恐れがありますのでみんなで生き残り策を考えましょう。礼儀正しく、辛抱強く、しつこく、美しく、模型ヒ

コーキを飛ばしましょう。

この日は前日から強風の予報で、朝から風が吹いていました。事務局の悩みは大きく、開催時間を遅らせて様子を見ていましたが、8時過ぎに風が一時おさまる感じがあり、8時半よりの実施に踏み切りました。ところがドッコイ、次第に風が強くなって「勇気あるものは飛ばせ！さすれば優勝、メロンが2個」のイメージが強烈……。この後は勇気＝蛮勇と機体の消耗のバランスが行ったり来たりで、模型を持った人形劇のハムレット（意味不明か……）

結局は、不成立はF1Jのみで、ライトプレーン、HLG、F1G、F1Hの4種目は競技成立となりました。これはメロンの魔力でしょうか。HLGは飛ばすのはさして問題がないものの、回収が大変、上空視界没や着地後の破損でこれも消耗戦の様相。特に、F1Hとライトプレーンは消耗戦となり、グライダーは曳航上昇中に散らかったり墜落したり。カーボン機は羽が丸くなくても上がるものの着地での破損ありで、特に和田選手は3機破損＝メロンで立派?????。

30秒で土手超えですから、小型機は行方知れずと、発航時や着地後の破損や、何回トライしてもアテンプトの20秒以下の記録で終わった選手もいて楽しい……………？

この日はさすがにフライオフはなく、やや早めに櫛引なべが解禁になって、心配していた売残りもなく、表彰式の後解散になりました。湘南クラブの方々、ご苦労様でした。来年もよろしく。

#### 概略の順位

F1H	優勝	和田、	2位	宮辺、	3位	深田
F1G	優勝	倉田、				
HLG	優勝					
ライトプレーン	優勝	岩田夫人、				

#### ◆ 2004年寒中杯報告 参加者58名

平尾……⑨

この日は天気予報通り好天。安心して会場に行けました。1月の湘南大会が強風で飛ばせずウジウジしていた選手は早々と会場に着いて手ぐすね引いて競技開始を待っていました。

##### \* F1G 参加16名

好条件なのでパーフェクトが多数出ると思っていたが、これはハズレ。3分MAX通過者は6名も居たのにパーフェクトは2名のみ。残った出口選手と模型ヒコーキの事なら何でもやる島崎選手の勝負になった。フライオフの結果は105秒対91秒であっさり出口氏の優勝、島崎選手が2位となった。3位は昔のヒコーキを飛ばす伏兵・浅沼選手でした。

この種目はバルサ機が多く、フル装備のカーボン機との戦いでしたが、残念ながら1、2位はカーボン機でしたが、3位にバルサ機が入ってこれも良しです。

この種目は新勢力（6名）が1/3を占めて、古参組（7名）をいじめていました。伝説の人・大村さんがメトロポリタンで参加、されど最下位でした。石井英夫氏も参加していましたが練習不足か、毒気がとれたのか5位でした。

##### \* F1H 参加11名

この日の参加選手は多く11名、競技開始当時（午前8時）は風が無く年寄りにはきつそう。そこを3分MAXで行くのがこの日は若手の勝ちか。予想通りMAXを出した選手は土肥、白井両選手のみ。以下続いたのが横浜の吉田選手と新興勢力の山本選手、他は1ラウンドで脱落。

前半は出来の良い組と駄目な組にキチンと別れてましたが、後半になると下位は混戦模様。久しぶりに石井氏率いる横浜からの選手は練習不足からか早々と脱落、その後をバタバタと落としている選手が団子となって争いました。この日の特色は自作が9名と多かったこと。材料分けではカーボン翼が4名バルサ翼が7名でした。

又、組分けとして一発離脱の小堀、櫛引選手、サークリングは出来るもののなかなか決まらないグループ、バント機グループと3組に別れていました。それと練習量のあるなしでタイムが別れ

ました。でも、さすがにバント機は強い。次回は頑張る。

**\* F1J 参加7名**

この競技は機体の飛びすぎから、この場所ではやや狭くなってきました。そこをどう戦うか……。関西からフラリ参加の宮本選手は大歓迎でした。いずれの機体もほとんど見分けがつかない程似ていて、3万回／分近く回るエンジンで、すごい高度を取り滞空性能と言うより、ボケミスとの戦い。この中に1機だけハーフウェイの螺旋上昇機の御子柴選手が入って、この機だけはモーターラン7秒で参加、意外と善戦していました。

**\* HLG 参加14名**

この日の競技はラウンド制で実施。普段やりなれている方法と違うので、慣れていないものの、また別な緊張感があってこれも良いのでは……。ラウンド制で春山、吉田選手の2人がフライオフに残ったのは立派。また、今回初めて「円盤投げ」HLGの春山選手が優勝しました。3位はこのところ顔を見せなかった井村選手が入り、以下小差で続いて、古矢さんも含む全員が200秒以上は異常!!! HLGに較べて他の種目は出来が悪いのでは。(順位別添)

[ F 1 G ]	1R	2R	3R	4R	5R	F01	計
①出口東生	120 +60	120	120	120	120	105	765
②嶋崎和利	120 +60	120	120	120	120	91	751
③浅沼資司	120 +15	120	120	120	120		615
④小林茂夫	120	120	120	120	120		600
⑤石井英夫	120 (60)	120	115	120	120		595
⑥海老原清	120 (60)	111	120	120	120		591
⑦鈴木深志	120 (43)	120	107	120	115		582
⑧中野 紀	120 (60)	90	120	116	120		566
⑨前田 喬	120 (60)	91	106	120	103		540
⑩勝山 彊	120 (29)	120	120	31	120		511
⑪渡辺了敏	120 (36)	120	110	120	8		478
⑫佐野康仁	120 (39)	72	120	120	21		453
⑬松尾哲郎	75	44	120	120	52		411
⑭大桃 隆	0	0	120	0	0		120
⑮新谷誠悟	73	0	0	0	0		73
⑯大村和敏	66	0	0	0	0		66

[ F 1 H ]	1R	2R	3R	4R	5R	計
①土肥英幸	120 +60	120	120	120	120	660
②白井庄二	120 (60)	120	120	91	120	571
③深田明彦	114	120	120	75	83	512
④山本 修	120 (16)	59	85	120	120	504
⑤小堀三夫	116	8	120	120	120	484
⑥平岩 保	114	120	118	0	120	472
⑦平尾寿康	47	34	51	120	120	372
⑧櫛引敬司	82	101	86	45	38	352
⑨宮部康治	51	43	109	60	21	284
⑩吉田勝海	120 (28)	120	0	0	0	240
⑪平井久俊	97	0	0	0	0	97



[F 1 J]	1R	2R	3R	4R	5R	F01	F02	計
①江連 明夫	120 +60	120	120	120	120	240	114	1014
②津田 晃英	120 +60	120	120	120	120	240	97	997
③本永 昇	120 +60	120	120	120	120	68		728
④宮本 茂樹	120 (60)	120	112	120	120			592
⑤木引 敬一	120 (60)	120	120	120	101			581
⑥御子柴清志	120 (60)	120	99	95	120			554
⑦田久保潤一	75	120	120	0	0			315

[H L G]	1 R	2 R	3 R	4 R	5 R	F 0	計
①春山清夫	60	60	52 60	60	50 60	69 90	390
②吉田利徳	54 60	60	60	51 60	53 60	49 60	360
③井村真三	60	54 51	60	60	60		294
④池田 昇	53 48	60	15 60	60	33 60		293
⑤石山芳彦	60	47 37	46 53	60	27 60		280
⑥石井 満	41 60	60	60	60	35 6		275
⑦齊藤勝夫	40 60	60	60	60	0 31		271
⑦津守功一	60	45 60	36 54	30 60	10 37		271
⑨小川 昇	31 60	42 60	0 51	32 60	27 24		258
⑩星野 聡	45 42	60	42 8	47 29	45 60		254
⑪今関建一	35 34	60	55 49	35 56	23 32		238
⑫古矢泰一	41 60	30 31	46 50	26 19	60		227
⑬大八木重伸	25 23	39 52	46 38	29 39	27 46		208
⑭相澤泰男	25 20	43 26	3 38	30 35	60		201

## お知らせ

### ● 04年国際級F1ABC競技会案内

⑩

1. 主催 日本模型航空連盟・FF委員会
2. 競技種目 フリーフライト F1A、F1B、F1C
3. 開催日時 2004年4月3日(土)、4日(日)
4. 開催場所 板倉田んぼ・群馬県邑楽郡板倉町細谷、離
6. 参加費 選手ー14, 000円、宿泊しない選手ー9, 000円
7. 申込み 〒270-0123 流山市若葉台11-28 織間政美 Tel04-7152-7500
8. 申込期限 3月20日消印有効
9. 宿泊場所 ホテネ三吉野別館 佐野市富岡町324 Tel0283-22-1489
10. その他 競技開始7.00の7ラウンド競技。詳細については、FF委員会にお問い合わせください。又は、インターネットホームページ・「ランチャーズ」をご覧ください。
11. 追加 是非見学にお出てください。

## FF文化サロン

### ■ 先尾翼(エンテ/カナード)CLGの混乱機【記】

佐藤・・・・⑪

昨年(2003)の12月17日、ライト兄弟が「ライト・フライヤー」で初の動力飛行に成功して100年が経ちました。人類初の飛行機が2枚の先尾翼と2枚の複葉の主翼と2枚の垂直尾翼と構造だったことは本当に驚きです。この先尾翼の元祖に遅れること100年、遅まきながらCLG(カタパルト・グライダー)で、昨年(2003)の2月から先尾翼(以下エンテと記す)で記録会に参加することにしました。

模型の世界でも1937年フランク・ザイク(ザイク年鑑)がエンテの図面(ゴム動力とプッシャーグライダー)を発表していますので、フライヤー号に遅れること30年ぐらいで、どこかの空を飛んだのではないかと思います。

私とエンテ模型機の縁は25年ぐらい前になりますが、A字型ツインプッシャーを見た記憶のみです。従ってエンテは私にとってはまさに初陣です。エンテを始めたのは記録会に参加する5~6ヶ月前でした。そろそろ無尾翼機にも飽きて来たので、なにか面白そうなモノはないのかなあ一と思って作り出しました。挑戦して10ヶ月経過しましたが、今までの記録会での最高タイムが261秒。初期の段階でこのタイムが出たため、5MAXが比較的早い段階で出せるのではないかとの思いで、次々とエンテを作り続けました。記録が出た機体は、今まで飛ばしていた無尾翼機に胴体と先尾翼(水平尾翼)を取りつけただけのものですが、簡単に調整が出来たので意外と飛ばしやすいのではと思いました。しかしながら、色々な機体をつくり続ける内に、エンテの飛ばない機体が続々できてしまいました。トレーナーの機体をエンテに改造したり、チビタの機体も同様に改良したりして、既存(トレーナーの一般機)との差異を確認したところ、滞空時間は50~60%程度で「こんな無茶」はダメと気づきました。

そんなこんなで先尾翼・後退翼・通常翼を付けたエンテの胴体/先尾翼/主翼(後部)/垂直尾翼等の面積・長さ・重量、及び、上反角を色々と変えています。なかなか上手く飛んでくれません。勿論、機体の打上方(垂直か螺旋)および機体の精度等を考慮する必要がありますが……。未知の経験の中で、理論武装もせず、ただ闇雲に試行錯誤した結果ですが、何か新しいことに挑戦するとき、このような経験は誰にもあるだろうと思います。そんな時に、私たちは自分のやり方が正しいのだろうか、一瞬迷ったりすると思います。そしてひとたび迷いの淵に入り込むと、底なし沼のようなところがあり、1つの迷いが新たな迷いを呼び起こし、どうにも動けなくなっ

てしまったと言うのが今の心境です。

以上のような状況のため、エンテのポイントとか飛ばす方法等については、機が熟した段階で詳解させて頂きたいと思います。

**99%の失敗と1%の成功を夢みて2004年もエンテに挑戦します。”自身の心琴線にふれるサムシング「何か」を掴みます。**

追記：何時までも、何時までも、私たちは待っています。佐藤さん、ガンバッテ！！

追記：佐藤さんの記事を読んで、エンテの模型飛行機を探して見ました。ところが、驚いた事に資料は2例があっただけで、ほとんどありませんでした。それでも何も無いよりは良いと考えて、資料を掲載します。1つは1971年頃のゴム動力機で角胴、展開スパン1, 168mm、胴長1, 016mmのほぼF1Bサイズのもので、もう一つはアメリカのCLGで、ルサ製のキットの解説図で、但し、寸法は入っていませんでした。

## ■ 最新・UHLG考

平尾・・・・・・⑫

これまでUHLG（アンダースローHLG）に付いて何回か書きましたが、これまで必須条件としていたことの中で、明らかに間違いと解ったことがありますので、今回訂正したいと思います。

スパン60cm～100cmのUHLGを4機テストしてきましたが、その結果、大きさによって必須条件が変化するのではないかと考えるようになりました。そこで、おおよそのサイズ分けをして、機体の設計、調整、投げ方をについてまとめました。

### 1. 小型機（スパン70cm、自重80g程度まで）は主翼尾翼とも向角が不要

投げ方が定まってくるに従い、機体の返り方も予測できるようになりました。野球投げと違って円盤投げの場合は20～30%は機速が早いようで、それほどガムシャラな投げをしなくても高速で上昇します。推定ですが野球投げの場合機速は一般的には時速80～100km程度と思いますが、UHLGでは100～120km以上になっていると思います。この事はUHLGの取得高度を見ても妥当だと考えます。但し、慣性があるものの大型機になると機速が違ってくるので、設計や調整が変わってくると考えます。

くどいようですが小型機の投げ方は、決して上向きに投げない様に、高速で水平に振り回す事が大切です。又、機速が上がった分だけ機体は上を向いて上昇し高い高度を取るのも、野球投げの時よりも尾翼の変動には敏感です。よって設計製作時に注意することは、極力向角を付けないこと。普通のHLGの様に主翼前縁の檜の部分に0.5～1mm程度の削上げがあれば十分ですが、さらに調整用として水平尾翼と胴の取付け位置にくさびを入れて向角を動かせるようにすると便利です。調整が決まるとUHLGでもどう投げても返る様になるので、各人それぞれの機速によって高度が決まってきます（これは野球投げHLGと同じ）。そうすると小手先で軽く水平に投げても綺麗に返ります。ここで問題なのは機速がある分、0-0調整をしても宙返り気味になることです。野球投げの場合は、ほとんどの人は上向きに投げるので、前縁の削上げがほとんど無くても高度を取りますが、UHLGの場合も削上げが必要ですが、その付け方に敏感に反応する点が問題となります。かといって水平尾翼で0-0よりも下に向くように調整して、滑空は重りを軽くして調整するのは感心しません。

### 2. 揚力尾翼は有効か

前記の様なことから高速の出せる小型のUHLGも揚力尾翼（翼型に整形する程度）を使った方が有利ではないか考えます。但し、発航速度が効くか効かないかの微妙な位置にあるのでこの辺りは今後の研究成果により判断すべきと考えます。大型になるに従い速度が落ちてくるので、

個々人のパワーによって揚力尾翼の有効性が変わってくると思います。但し、機体がどうやっても宙返り状態になるようであれば、ぜひ試して欲しい。揚力尾翼にするには重心位置を下げる事と、やや大きめの水平尾翼、キチンとして尾翼断面が必要です。この辺りは機体の様子を見ながらカット&トライでやってください。

### 3. UHLGはフラップ翼が有効

野球投げHLGの場合は、取得高度の点でフラップ翼は不利でしたが、UHLGでは取得高度に影響が無い（あっても極端に少ない）ように思います。しかも滑空になると断然有利でやらない手はありません。フラップ翼にした場合の利点は他にもあります。それは断面2時モーメントが増えるので横方向の強度が増えることです。主翼をフラップ翼にするのは当然として、スパン90cmの場合は水平尾翼もやるべきです。尾翼をフラップ翼にすると長さが30cmの場合でも2mmのバルサ板で十分な強度がでます。

さて、そこで問題です。水平尾翼をフラップ翼にした場合、向角はどうなるのか。これまでのテストでは1~2度は必要のようです。主翼の重心位置が少し下がって僅かですが機体重量が減少します。2つ目は「返り」で頭下げになってやりやすくなるのではないか思っていますが、テストの回数が少なく結論は出ていません。

さて、話題を戻して、主翼をフラップ翼にする方法ですが、翼の下面をえぐるのはなかなか面倒です。そこでお勧めは、下面にレザーソーで切目を入れてV字型折る方法です。現在の所、主翼の2/3程度の所に切目を入れて、翼後縁に2mmの角材の介物をして台に固定して瞬間で接着する方法です。切れ目を入れた分だけ強度が心配ですので硬化後エポキシを塗っておきましょう。フラップ翼HLGは見ていて気持がのよいほとフンワリとした滑空をします。水平尾翼も同様な方法で造ります。

### 4. 大型機は向角が必要か？

スパン90cm以上になると、機体も大きく重くなるので投げる時のコントロールが難しくなります。重量も100gを超すので小柄な人は振回される恐れがあります。当然これを水平に投げ出すのは体力が必要です。そこで慣性で上昇して綺麗に宙返りをして返す方法が必要になります。元祖・石井満氏が大型機（スパン1200cm、機体重量200g以上）で苦心惨憺しているのが、この問題です。大型機を弧を描いて上昇させて、右か左に傾かせないと返りません。大型機は運動性も悪くなるので、投げ出す方法と、姿勢制御が大幅に難しくなります。その一つが主翼又は水平尾翼に向角を付けて宙返り気味に返す方法です。

現在、私は持ち運びの関係からホップアップ式主翼を採用していますので、主翼に向角を付けるのが最も簡単ですし、その調整も楽です。これまではこの方法で進めてきて、技術が向上するに従い機体が高速で発航出来るようになると、次第に向角を減らしても返るようになりました。

現在私が保有する機体で一番大きいのはスパン100cmですが、この機体は翼面加重が小さい（9g/dm<sup>2</sup>）ので投げ上げるとコロッと返るので、かえって、その特性が解りません。

又、現在の保有機の中で翼面加重（14g/dm<sup>2</sup>）が大きいのはスパン90cmの機体で、この機体は主翼、水平尾翼ともフラップ翼です。しかし、機体が大きいので狭いところでは調整が出来ないし、重量があるので土の硬い大宮田んぼではすぐ壊れて調整が出来ません。もう少し時間をかけてテストをすれば、その動向が解るはずです。

### 5. 機体の大きさについて

これまで、展開スパン100cm、90cm<sup>2</sup>機、70cm、60cmと作ってきましたが、使いやすいのは7~80cmまでの様です。大型で且つ機体が重くなるにしたがい、投げを失敗した時のダメージが大きいのが問題です。特に大宮田んぼでは地面の状態が悪いので損害は大き

い。下田さんがラジコンUHLGを飛ばしていますが、スパン130cm、機体重量300gクラスの機体を失敗しないで見事な高度を取っています。これを見ているとFFでもやれるのではないかと思います、これまでの機体の破損状態を考えると7~80cmクラスが最も使いやすいと思います。競技機としてはこのクラスが最適ではないかと考えています。

## 6. UHLGの参考図（図面別添）

1月に300秒を出した機体を再掲します。現設計との違いは翼をフラップ翼に改造した点です。展開スパン720mm、重量66gと使いやすい機体です。この機体の場合はやや上向きに投げて綺麗に返ります。軽いサーマルがあれば簡単に60秒飛びます。静止気流時の滞空性能は測っていませんが、滞空性能はほぼ1分かと思います。

## ■ 新・H L Gの紹介

提供・吉野栄三郎・平尾・・・⑬

今回の紹介のH L Gは、先日吉野氏が米国から購入して飛ばしていたキットの紹介です。図面は当然英語ですが、そこは好きな物のことと見ていれば理解出来るはずで、このキットは円換算で4,500円程度です。当然ながら販売、設計者の希望としてはキットを購入して欲しいので、パクらずに買ってください。

このキットを紹介する理由は2つあります。1つはデサマ、夏頃ランチャーズホームページに出ていたアルミパイプ製の回転体（デンタルガム使用）が使用されている事、2つ目はデサの機構が変わっている事です。さらに、翼が骨組み紙張りである点も特徴的です。

### 1. 機体の諸原（図面よりの読取り）

展開スパン・762mm、スパン・724mm、胴長・635mm、機体重量・45~55g、重心位置・55%、主翼面積・8.5dm<sup>2</sup>、翼面加重・5.6~6.5g/dm<sup>2</sup>

ここで気が付くのは、驚くほど小さい翼面加重です。まさに「室内機」的で高度さえ取れば1分の壁は無いようなものでしょう。この機体を円盤投げに改造する場合は、つかみ部分の翼端パネルをバルサ無垢にするか、カバー材をカーボンにする必要があります。又、上半角が10.8%ですのでこれを13%以上に増やす事と、垂直尾翼面積を150%にすれば使えるはずで、

### 2. 機体のデサマ機構について

この機体のデサは胴体を45度折る仕掛けです。主翼ホップアップと似ていますが、胴体の前部分が主翼と一体になっていて、胴体の後部のみが45度曲がる仕掛けです。感覚的に気になるのは尾翼の向角の調整機構の問題です。しかし、そこがしっかりしていると、向角が簡単に調整出来る点は主翼ホップアップ式と同様です。向角の調整機構は図面だけでは理解不十分ですが付いています。先日キットの完成機を見せて貰いましたが、使用バルサは素晴らしくプラスチックと見まがう程の綺麗な物でした。これだけでも欲しくなります。

### 3. ダンパー遅延タイマー装置

この部分は図面では「Cool Tube」となっていますが、火縄が熱いからなのか、別に意味があるのか不明です。意味があるならば、どなたか教えてください。ランチャーズ・ホームページの文を参考に自己流で作って見ましたが、複雑に考え過ぎて失敗しました。しかし、今回実物を見ると簡単で、これは作れそうです。

デサの構造は直径5mmのアルミパイプの中に3mm径のパイプがダブルに入っていて、その隙間にデンタルガムらしき物が充填してあります。3mmのパイプの端にピンが打ってあって、これにゴムを掛けてチューブを遅延回転させて使用する物です。価格は10\$ですので送料共で

2,000円弱になるかと思います。数がまとまれば吉野氏に依頼して購入する事が出来ます(本人は了解していない)。実物のテストではキチンと動くようです。デサの推定重量2~3gなので価格とも魅力十分です。

さて、その使い方ですが図面をご参照ください。テールから前に引張るホップアップ索にガイドが付いていて、それを直角方向に曲げ、デサのピンに引っかけています。ゴムの取付け位置と、抵抗の少ないガイドを工夫する必要があります。

#### 4. その他

説明も左旋回滑空となっていますし、スタブティルトも左旋回になっています。しかし、この機体では指掛けがスタンダードのと逆の左に付いています。この理由としては、大型機なので投げるとき右に旋回しにくいのが理由かも知れませんが、又、外国の機体にはよくありますが、主翼の向角のアンバランス調整にバルサブロックを取りつけていますが、これは頂けません。昔これをやっている人がいましたが、やはり翼自体で修正するべきでしょう。

設計はレン・サーティースですが、様々なサイズの同様なキットがあるようです。本機はこの中では最大のサイズです。図面には手書きで「コピーするな」となっていますが、日本人はへそ曲がりなのでこのまま作る人はいないでしょう。例え仲間の誰かが作るにしても、精度も重量も素晴らしい仕上がりで、別な機体にしてしまうでしょう。レン・サーティースに感謝して、図面を参考にしてください(図面別添)。

## 仁木さんのライトプレーン100号記念に寄せて

石井英夫

ヤッタネ!!仁木さん

平成15年9月某日、仁木さん製作のライトプレーンが遂に100号に達したそうです。期間は約3年。ハイペースで作りつづけて100機。それも固い米ヒバ材削り出しプロペラ付きの100機ですから、快挙というほかありませんが、われわれ仲間は何と対応したらいいのか。「オメデトウ」もしっかりこないし、そうかといって「おつかれさま」もちょっとヘン。というわけで、ここはやっぱり「ヤッタネ!!仁木さん」でいいですか。

いずれ100号になったら何か書きますよと、冗談みたいにいっていたのがこんなに早くもう100号。ギネスブック、というほどではないにせよ、瀬谷フリーフライトクラブ(SFFC)の栄えある事跡として、仁木ライトプレーン100号に至る軌跡をたどってみようと思います。

心配もあります。集中して個人のことを書くだけに、あんまり深入りしては仁木さんの個人プライベートや企業ヒミツを冒すことにならないか? その心配はありますが、そこは日頃のツキアイ、仁木さん笑ってご寛容いただけるものと信じます。

多作の虫?

仁木さんはなんでまたこんなハイペースで模型ヒコーキを作り続けるのでしょうか? ライトプレーンだけじゃありません。先行するバルサパチンコ機(むかしPLG,いまはCLG)だって、とうに1000機は越えている筈とのご本人の弁があります。仁木さんをこの異常な多作に駆り立てる魔力はいったい何か?。小生の診断はこうです。仁木さんの体の中には強力な「多作の虫」が住み着いていて、仁木さん本人の個人意志に関係なく、内部から仁木さんをつき動かしているのだと。とっぴな憶測というなかれ、体内に巨大なサナダ虫を住まわしているのがご自慢の、高名な医学博士も居られますから、「多作の虫」だってあながちにあり得ない話じゃありません。いっちゃナンですが、こういうのはもう一種の病気ではないのか、それともー。

冗談はさておき、仁木さんはまれにみる「手」の人だと思います。頭が考える前に手足(足はカンケイないか)勝手に動いてしまう人。そうして、ここがいちばん肝心なんです。何かモノを作ってさえいれば人生しあわせ、工作の楽しみを思えば、もったいなくて手をムダに遊ばしなんかおけない—そういう人。

工作ぎらいの不肖小生との比較でいうなら、同期間に仁木さんは小生の10倍数のライトプレーンを作っています。小生がふつうで、仁木さんは異能人です。

多作の効用

だんだん深入りして、仁木さんにおける多作の意味、多作の効用について迫ります。人並み外れた多作によって、仁木さんが得たもの(もしくは失ったもの)は何なのか?

異なことをいうようですが、仁木さんはもともと模型ヒコーキがそれほど好きではなかったと、小生はみています。ただし本性が折り紙つきの工作好き。そう言う人が10年ほど前、瀬谷の米軍基地ひろばでバルサCLGを飛ばす小生と、たまたま出会ってしまった。これが良かったか悪かったか。

乗り替えて別のなにかに打ち込むためには、元の何かをすてなければならない。そこからの変わりようが仁木さん流で、うかがったところによれば、ご夫妻共通の楽しみだったボウリング場通いから完全オサラバ、別人みたいにパチンコ機作りへのめり込みが始まります。熱心さはハンパじゃなく、良質のバルサ材を求めて、県内をあちこち広域に探し回られた、ともききます。カゲの力—とびちるバルサくず、シンナーの匂い、美人で心やさしき奥さまの心ずかい、男の道楽の条件にも仁木さんは恵まれています。仁木さんの初期CLGについては、飛ぶ性能より何より、作る楽しみそのものに主眼があって、バルサCLGは工作欲望のダシに使われた—とまでいうのはさすがにいい過ぎですが、そんな感じもありました。普通の初心者は苦心の愛機にこだわって長期に離そうとしないものですが、仁木さんは違いました。作る楽しみ優先の「手」の人、仁木さん流です。

話をライトプレーンに戻しますと、ライトプレーンへの取組み方がまた仁木さん流でした。工作の手が休みませんから、とにかく次から次と新作が出来てしまう。まだ調整半ばにしてもう次ぎという次第ですから、1機にじっくり付き合って性能を引き出しているヒマがない。これで終われば、ただの量産家仁木さんですが、量産家で終わらないのが仁木さんです。ハイスピードで量産を続けるうちに徐々にだったが、それともある契機を境にだったが、飛ぶ性能重視のホンモノの模型飛行機家に仁木さんは変身するのです。多作の効用を考えてみようというのはこのことです。

## 仁木ライトプレーンの変わり方

いま仁木さんのライトプレーンが、飛ぶ性能においても一級品であることを認めない人はいません。多作の仁木さんが、どのように性能の仁木さんに変身したか。

小生が、ひとより余分に仁木さんの変わりようを知る有利な立場にいるのは、相当数の完成機を仁木さんからせしめているからです。改造して“まちだ—あほうどり”の屋号をつけて自分のモノとして飛ばしているわけですが、少なくとも5~6機かそれ以上、手がけたライトプレーンの半数ぐらいが仁木さんからの貰い物です。自作不熱心のなせるわざで、もちろん自慢になることじゃありません。

仁木ライトプレーンの技術的な変わりようを、時系列的に初期、中期、最新期に分けて、小生による仁木機改造の視点からみてみます。

仁木さんも小生もライトプレーンを始めた発端はほとんど同時期で、3年ほど前だったかと思えます。仁木さんサイドの事情は知らず、当方の側だけでいえば、ライトプレーンに手をつけたのはほんの気まぐれに過ぎません。

これに先立つ少し前、小生としては瀬谷ひろばで国際級のセンスでやれる小型ゴム動力プロペラ機、「通称ミニクーブ級」の普及にねつを入れていました。ゆくゆくは定例競技までユメ見ていたのですが、仁木さんはじめ少数の同好者を得たにとどまり、いつの間にか立ち消え状態。そのことがあって、気分を変えるためにライトプレーンに手をつけてみたのです。もともと興味もなく、未経験のライトプレーンでしたが、国際級のセンスでやるとどうなるかな、ぐらいの実験のつもりでした。

実験の一部始終は《ライトプレーンの空気力学的考察》として、くわしく「ランチャーズ」に書きましたが、実験したのはテーマ別にA・B・Cの3機で、それぞれ狙いも仕様も違います。A機（ゴム10グラム、折畳みプロペラ、高度100m滞空4分狙い）、B機（スパン45cm、折畳み1翅プロペラ実験機）、C機（スパン45cm、空転プロペラで滞空3分ねらい）。このC機というのが、仁木さんからの最初の貰い物機の改造です。B・C機がなぜスパン45cmかということ、奈良平城京松本杯競技への参加を考えていたためです。このときはまだゴム量5グラム制限というのはありませんでした。

空気抵抗がバカ大きいプロペラ空転式というのは滞空機では邪道と思っていますから、小生もともと好みません。けれども、このときいちばん情熱を燃やしたのがじつは相性の悪い空転式のC機で、なぜC機にだけそんなにムキになったかということ、空転式で3分はぜったいにムリだと強弁する誰かさんがいたからです。名前をいえば、瀬谷でも知る人は知る武蔵野グリーンパークの古顔のボスですが、小生そんなバカな事はないだろうと。

小生新作となるとアレですが、修理とか改造なら好きで、改造前・改造後でハッキリ性能差が表れる改造は喜んでやります。国際級とちがい、片面張り翼、ゴム露出型の一本胴ライトプレーンなら、完成機からでもいくらでも改造がきくところが面白い。

空気抵抗のカタマリ（国際級の約3倍！）みたいなライトプレーンでは、性能を悪くしている空気抵抗の削減が第1の仕事で、これにムダな構造重量の削減を組み合わせれば、性能は見違えるほど良くなる筈です。もうひとつ効果があるのがプロペラ効率の改善ですか。

もと仁木製ライトプレーンからの改造では、主翼（バルサの角翼）だけ残して、胴体（部材は使用）、尾翼、プロペラ（もと市販品）など、すべて作り替えました。主翼を残したのは、部材がものすごくゴツかったものの、手を加えれば何とかやれそうに思えたからです。

改造の甲斐あってか、もと26グラムあった本体重量は19グラムにまで軽量化されました。空力的な改善については申すに及ばずです。

直径26cm、ピッチ比1.3の超細身プロペラ、動力ゴム6条7.5グラム最大捲数約900）、この仕様によりモーターラン約50秒、上昇高度100m、滑空沈下毎秒70cmを狙います。結果はどうだったか？豆粒大の高度を見て、滞空3分は確実といってくれる人もいましたが、小生の見立てでは、高度はともかく、滑空沈下がどうかな、という感じでした。以上にみるように、根こそぎ改造の余地があったのが、初期型仁木ライトプレーンです。

ゴム量5グラム、プロペラ自作時代になってからを中期型に分類していいかと思いますが、中期型になって、仁木ライトプレーンは実質的にもものすごい飛躍をとげます。要所要所にムダがとれて、見た目にもスッキリしてきます。多作の効果がようやくつみ重なって、やる事がいちいちツボにはまってきたということでしょう。作る楽しみに性能を追う楽しみが加わって、仁木さんいよいよライトプレーンが面白くなってきたのではないかと。

この時期、仁木機を貰っても改造する楽しみがいちじるしく少なくなりました。やることといえば、石井流儀のプロペラに替える事ぐらい。書く事がほとんどありません。そうして、片面翼



の紙張りが不得手な小生は、以後自作機の紙張りはみんな仁木さんに甘えて押しつけることになります。

そして最近作。100号がゴールでもあるかのように、仁木5グラム級ライトプレーンは作るスピードも性能向上ぶりも、猛烈に加速します。もう止まらないという感じ。垂直上昇狙いの90号以降の最新仁木機には、もう外部から物言いは付けられません。新しいアイデアも色々試みられて、それぞれに出来・不出来はあるのですが、100号は単なる通過点に過ぎず、100号以降の仁木さんはもう独自世界を行くのみです。第78号機を最後として、改造のたのしみが失われた最新仁木機をねだる気持ちはもうありません。

#### 器用・不器用問答

お話かわって、しばらく器用・不器用問答になります。というのは、仁木さんの模型ヒコーキ上手は、生まれつきの器用さによるものだ、という説を耳にしたことがあるからです。

なるほど仁木さんはまごうことなき工作の達人ですが、小生の見解はちと違います。仁木さんの工作じょうずは生まれつきの器用さというよりも、並外れた工作好きにもとづく修練のたまものだ、というのが小生の見解です。違いますか？ そう思うのは、ゴッドハンド、神の手をもって生まれた男、これぞ極めつきの器用人間というべき人物を、過去に見知っているからです。

その男はK君といい、中学生ですでにHLG（ハンドランチグライダー）では一目おかれる実力者で、休みになると親の制止をふり切って（親からは抗議がたびたびきた）、川崎から電車を乗りついで町田の小生宅に遊びに来ていました。

ある朝、あいにくの雨で近くのニュータウン造成地に飛ばしに行く予定がダメになり、では何か作ろうか、となりました。スケッチ図面を作り（大形のリップ組みHLG）、さてテーブルに向き合って個別に工作を始めると、小生が苦手とするバルサカンナなども上手に使って、中学生のK君、なんと小生よりもつねに進行が早く、仕上がりも見事なのです。先生・生徒の立場は逆転して、このときはほんとうにあせりました。生まれつきの出来が違う、天成の器用人間ているんだ、そう思いましたね。

高校生になると、K君は国際級グライダーの全日本チャンピオンになって、世界選手権スペイン大会に出場します。これは、ある年の日本選手権競技での出来事。当時競技場は富士の裾野の東富士演習場でしたが、K君、まだ早いラウンドのうち、強風下のサークルングで主翼を折損してしまうのです。（K君のグライダーは造作がデリケートに過ぎて、実用上のタフさに缺けるキライがあった。K君は室内機競技もやっていた。）代替機はなく、これでリタイヤかと見ていると、K君ここから本領発揮します。外は強風、小生のアコードのせまい後部シートにこもって、接着剤を一滴もこぼすことなく長大な翼の修理を完了し、競技に再参加するのです。魔術を見ているようでした。

日大に入ったK君、なにを思ったかフリーフライト界から忽然と姿を消してしまいます。風のたよりに、航空科学生でもないのに（航空科は試験をすべった）日大人力機グループのボスのリーダーになっているときき、どんな様子が琵琶湖鳥人間競技を見に行ってみました。照明を当てて、滑空機部門の組立てで大忙しの前夜、正規のリーダー（航空科学生）をさしおいて、大声で指示を与えているK君がいました。日大教官を引っぱってきて、この人がボクのヒコーキの先生ですと紹介されたには恐縮のいたりでしたが（K君にはお世話になっていますと教官）、K君のこのあとと言ったことがニクイ。「航空科の学生は模型をやっていないからタメだ」とこうです。

このあとK君の消息はもう風評だけになります。鳥人間競技にプロペラ機部門が加わって、あの長大な人力機プロペラを自宅で独力で仕上げたという話も伝わってきました。設計、計器、工具、すべて自前でやるところがK君らしい。ソニーに入社して社会人になったK君、いま何をしているか。

余談が長くなりましたが、こういうのが器用人間という実例を示しました。仁木さんはむしろ修練の人で、器用人間とは違います。

さて、ここで問題。模型ヒコーキをやるのに器用さが必要か？ ぜんぜん違うと思います。模型ヒコーキに、器用・不器用カンケイない。理由はうまく言えませんが、器用すぎてはむしろ弊害のほうが多いのではないか。小生の知る模型ヒコーキ界の実力者に、やや不器用そうな人はいますが、器用自慢の人は見当たりません。

#### おくれて始めて間に合った人

仁木さんが模型ヒコーキを始めたのは定年後ですから、常識的には出発が少しおくれています。始めるのは早いほど良いといわれる芸事・習い事の世界では、おくれたのスタートでは周

回おくれのトラック競技に似て、先頭に追いつくのは大へん。ですが、仁木さんはおくれてスタートして間に合った稀有の人です。

歴史にイフ（もしも）は無いといわれて、思ってもせんないことながら、もしもです。もしも仁木さんがずっと若い頃から、少なくとも40代に模型ヒコーキを始めていたら、今ごろどうだったろう、と時おりフト考えることがあります。仁木さんには余計なことですが、どうだったでしょう。

いま仁木さんは急いでいます。模型ヒコーキがお気に召して、第2の青春だか第3の青春だかをやっているようにみえますが、不可能を承知でいうなら、仁木さんにはもっと長くゆったりした時間がほしかった。そのほうがもっと模型ヒコーキ趣味を楽しまれることができた、一そんなふうにあります。

しかしです。世間にはいっぽうべつの意見もあって、世の中はイロイロでタコの足はイボイボだ、なんて言った人がいます。早くに始めて経験長ければ何でも良いのか？「ご経験は何年？」とバカみたいに聞くのがNHKアナウンサーのキマリですが、そうじゃないだろう、と口の悪いのが名物だった昔の碁の師匠はいうのです。問題はスジが良いか悪いかだ。我流の力自慢をつかまえて、「そんな無筋に手が行くようじゃ、お前さんの碁は“もぎ残しの古柿”だ。」へ夕なりに固まっている、っていうんです。

#### 「眼力」の仁木さん

いつの頃か、仁木さんは「眼力」という言葉を口にされるようになります。小生の「観察力」と意味するところは同じと思うんですが、鋭さとパワーがまるで違う。「眼力」ねえ「眼力」。いえてます。なるほど。

理屈を持ち出せば、模型ヒコーキに限らず空を飛ぶものの原理は、おおむね空気力学に帰着するというのが科学の立場です。それはそれとして、こう申しては失礼ながら、仁木さん空気力学をご存じか？ ご存じなくたって一向にかまいません。鍛えられた仁木さん流の「眼力」があるかぎり。学者・理論家センセイの模型ヒコーキがうまく飛んだためしが無い、なんて悪口をいわれるのは、多作もせず、仁木さん曰くところの「眼力」にも缺けるところがあるためです。

最近、仁木さんと小生のあいだでは「眼力」が似かよってきたせいか、技術上の話はだいたいひと言で用が足りるようになっていきます。趣味の世界に遊んで何が快感といつて、仲間と要点がひと言で通じるほどの快感はありません。まわりくどい説明なんか下の下としたもので、「あ、ソレたぶん胴体の曲がりの問題」「ピッチ、をちももっと大き目のほうが・・・」、ま、こんな調子で話が通じませんとね。

仁木さん流の「眼力」があれば、空気力学なんか知らなくても差しつかえないことの証明。鳥・昆虫をみよ、連中がぶざまな墜落なんかしますか？

#### 教えることは学ぶこと

仁木さんがある時期以降、急速に技術を伸ばしたについては、仁木さんが初心者への指導に親切かつ熱心なことがあげられると思います。技術も信用ですから、間違ったこと、アヤフヤなことを教えてはヤバイわけで、ときには「ホレ、この通り」と実技で示して見せなければならぬ。——というわけで、教えることはいきおい、自身の技術をより確かなものにします。人に教える経験を重ねていちばんトクをしたのは、じつは仁木さんかも知れません。

そうひとつ、見逃せないことがあります。仁木さん自身が遊び上手であるだけでなく、遊ばせ上手でもあることです。何でもないのでじつに貴重な資質と申すべく、自身が面白く遊ぶだけの趣味人ならふつうですが、仁木さんみたいに人を面白く遊ばせることにも熱心な人となると、そうたんとはいません。瀬谷フリーフライトクラブのまとまりの良さは、仁木さんの遊ばせ上手に大きく負っているものと考えます。

#### むすび

以上、仁木さんのライトプレーン100号にこと寄せて、日頃はいえない仁木さんへの敬意と感謝の気持ちを表現してみました。模型ヒコーキというアソビも小さな文化とおぼしく、やっていたらいろいろ出会いがあります。人生終盤にきて、このような文を書かした仁木さんと出会うことができしあわせだったと、そう思っています。

2003.10.3

翼端投げHLG-JIL-トウ、シ改

S=1/4 by Hino.

改 2003/11.

石にかんむけ投げ  
石施①

月標性能 帯空 60秒

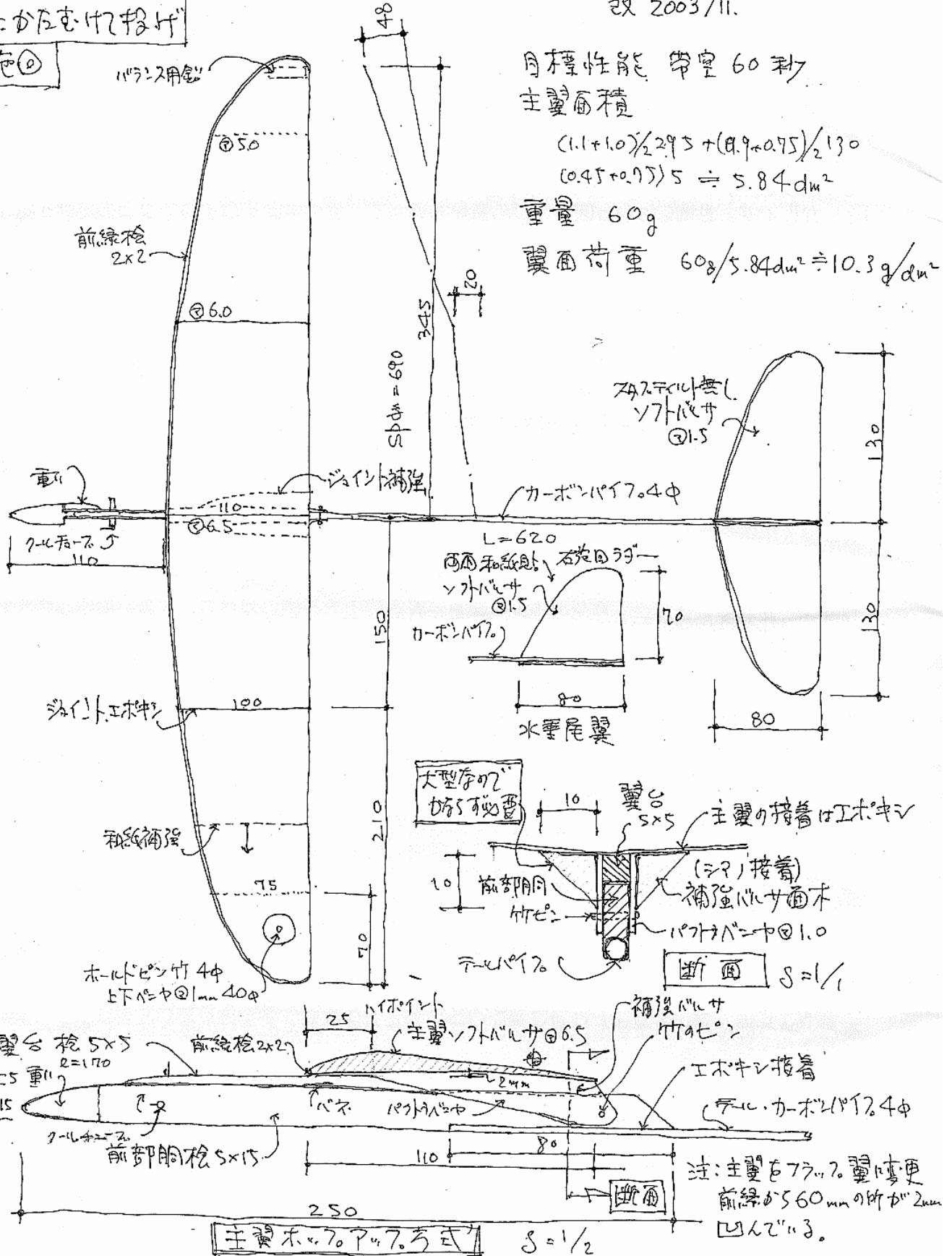
主翼面積

$$(1.1+1.0)/2 \times 295 + (0.9+0.75)/2 \times 130$$

$$(0.45+0.75)/5 \div 5.84 \text{ dm}^2$$

重量 60g

$$\text{翼面荷重 } 60g / 5.84 \text{ dm}^2 \div 10.3 \text{ g/dm}^2$$



主翼ホコ7.0φ7.5方式

S=1/2

FINISH: wing/lacquer 2 coats  
 sanding lacquer sealer sand 400/600 W&D (dry) one or two  
 coats of wax. Tail-coat sanding lacquer sealer-2 coats of wax

Len Surtees

Spruce L.E.

stabiliser  
 1/16" 1.5 6lb  
 quarter grain

1/32"

**STING**  
**MAXIMA 30**

Designed by Len Surtees

10 Woodbry Cres Tamworth

NSW 2340 Australia

lensurtees@hotmail.com

\* 1/32" fin offset for turn

Target weight 45 to 55 grams

Glider set up for R - Handed  
 Throw right - glide left  
 \* (reverse trim for L - Handed)

Recommended glues - 5 minute epoxy and cyano  
 SCALE-FULL SIZE-  
 take measurements directly from plan

Please do not copy Plan.

